

# 【 第6回 東アジア選手権 】

2018年7月3日～7月8日 開催地:香港

## 試合結果報告 7月8日 (日)

JPN	VS	KOR(韓国)
9	前半	17
11	後半	16
20	合計	33

### 個人得点

名前	得点	合計
1 石濱 壘		0
2 佐藤 陽太	1	1
3 久保寺 歩夢	1	1
4 可児 大輝	4	4
6 窪田 礼央	6	6
7 安平 光佑	1	1
8 清水 裕翔		0
9 吉田 守一	1	1
11 藤川 翔大	2	2
12 矢村 裕斗		0
13 角本 洵		0
14 山口 直輝	1	1
15 石嶺 秀	1	1
16 大禮 佑介		0
18 梶山 瑞生	1	1
19 金津 亜門	1	1
25 蔦谷 大雅		0
	20	20

### 戦評

最終日の対戦相手は、暫定一位の韓国。個々の能力が高く、体格も良い。何より組織として統一され、その流れで狙いすまされるOF力は秀逸である。韓国OFを吉田・窪田を中心とした日本DFが、どれだけ守れるかが焦点になる。

韓国ボールでのスタート。日本は窪田をトップにおいた5:1DFで韓国OFの分断を狙う。韓国はNo.3LIM、No.33KANGを中心に速いパス回しで攻撃を組み立てる。日本は安平のパスワークから、吉田・藤川で前半5分までは3-3。その後は日本OFのパスが繋がらず、速攻を許し6連続失点。佐藤の突破で返すも、安平の7mTが相手GKの顔に当立ってしまい失格処分。攻撃の核を失うも、窪田がロングをねじ込み、可児のミドルで8-13となんとか喰らいつくも、韓国のハードなDFの前にミスを誘発され、前半を9-17で折り返す。

後半は梶山の得点でスタートするも、韓国の強い1対1を前に、20分には15-30とダブルスコアの劣勢を強いられた。なんとか意地を見せたい日本セブンは、途中出場のGK・大禮がファインセーブを連発し、会場を沸かせる。それに応えるように、窪田、可児、山口が速攻に走り、終盤に5連続得点を記録し一矢を報いた。終わってみれば、20-33と一方的な試合となったが、最後まで諦めない姿勢は今後に期待を抱かせる。

このチームのターゲットは、9月にヨルダンで行われる世界選手権アジア予選である。それまでにチームとしてどれだけ成長しなければならず、今大会で得た多くの経験はハンドボール選手としてだけでなく人間としても大きく成長してくれたものと確信している。

報告記入者 :

**吉田耕平**